

ヒヨドリ



スズメ、カラス、ドバト等の人間の近くで人間と共存している鳥達にだんだん近づいてきている鳥に思えます。分布は日本全国におよびます。森林ボランティア活動を始めて5年目になり、札幌市近隣の森林を8ヶ所手がけてきましたが、森でこの鳥の声が聞こえない日はまずありません。ピーッ、ピーツと甲高いよく通る鳴き声で頻繁に鳴き交わすので、姿を確認するまでもなく、その辺りにいることが分かります。

飛び方が独特です。間歇的な羽ばたきをして、横からみると波状曲線を描きながら前進します。羽ばたきで推進力と揚力で位置を高め、すぐに翼を畳んで惰力にゆだね位置が下がるとまた羽ばたきと惰力推進を繰り返しながら前進します。セキレイ達もこれに近い飛び方をしますが、ヒヨドリはこれ専門の感じがします。

都心に近い我が家のマンション 9 階のベランダにナナカマドの植木鉢がありまして赤く実が稔る頃、抜け目なく偵察にあらわれたりします。サクラの花の蜜や本州ではビワの実を収穫直前の美味しいところを啄ばみにきます。きらわれ者になっているようなのです。



森林ボランティア作業中にもこれまでに巣を2度みつけました。先年除伐作業中に発見された巣は、シラカバ3本立ちの幹の真中地上50センチほどの高さにかけてたられていてヒナが孵っていました。これは無事に巣立ったと思います。この夏の北海道神宮でニセアカシヤを退治する作業中に発見した巣は、その後放棄されてしまい、残念な思いをいたしました。抱卵期間は2週間程度、孵化後たったの10日ぐらいで巣立つらしいので、産卵からほぼ1ヶ月足らずで飛び去ってしまうのですから、小鳥達的能力には驚かされます。

北海道で冬でも見かけますが、渡りもするようで室蘭の地球岬で青森方面から群で渡ってくるヒヨドリをハヤブサが襲撃している様子をテレビで観たことがあります。隠れるところもない海上でハヤブサに狙われては犠牲なしには済まされないことがよく分かりまして切なくなります。



この夏(2006年)焼尻島のイチイ原生林散策路でヒヨドリバナに出会いました。ヒヨドリが鳴く頃に咲くことでの命名と図鑑で説明されています。ヒヨドリは繁殖期にはさえずります。その時期のことをさしているのでしょう。珍しい野草ではありませんが、淡いピンクの小さな花が蜜集した花房はちょっと粋でありました。